

千葉県税理士会船橋支部 支部長賞

救急車と税金の関わり

船橋市立習志野台中学校

第三学年 若林 詩乃

先日、ニュースで茨城県は救急車で大病院に搬送されても緊急性が認められない場合、病院が患者から七千七百円以上を徴収することを検討していると知りました。これは救急車の適切な利用を促し、医療現場のひっ迫を解消したり、医師の働き方改革をしたりする狙いがあるのだそうです。茨城県の大井川知事は救急車が無料のタクシー代わりになっていることを指摘していました。

日本の救急車は税金によつて無料で利用できるようになっていきます。無料のメリットは誰でも利用でき、緊急時にも手遅れになる前に病院を受診することができることだと思えますが、デメリットとしては緊急性の低い利用が増え、本来に必要としている人が利用できなかつたり、救急隊員の負担が増えていることが考えられます。日本以外での救急車の

利用について気になったため、調べてみました。海外では救急車を呼ぶのに多額の費用がかかる国もあり、例えばアメリカでは救急車はタクシーのように走行距離によつて金額も変わるため、呼ぶだけで千三百ドル、日本円にして約二十万円かかることもあるそうです。アメリカの基本的な考えが自由主義なため、ほとんどの病院が民営であり、各医療機関で技術競争があり、自由診療で医療費が高額になり自己破産の理由のひとつになっています。調べてみると、日本でも救急車が有料なところがあることがわかりました。三重県松阪市の3つの病院では、今年の6月から入院しなかつた患者から七千七百円を徴収することを始めたそうです。この決定はいたずらや、軽症なのに気軽に救急車を利用するコンビニ受診を防止する目的があり、現在は前年同月から二百八十九件減っています。「有料化」の影

響については秋頃に検証結果が公表される予定だそうなので、今後がどうなっていくのかがとても気になります。今回調べてみるまで、私はどの国の救急車も税金で運営され、無料で利用できるものだと思っていました。救急車は人を助けるために利用されるものです。軽症者や関係のない利用が増えることで利用できない人が増えてしまうのは困ったことだし、有料化はとても良いアイデアだと思います。ですが一方でお金がかかることを心配し、救急車を呼ぶのをためらい、病気を悪化させてしまうことも心配されます。そのためリーフレットやアプリで受診ガイドが作られているようです。

現在の日本では救急車の利用を含め、保険証があることで気軽に医療機関を受診できます。今回の調査を通して税金が私たちのために使われ、生活を支えてくれていること、また自分が恵まれた環境にいるのだということがわかりました。私は現在便利に使っているシステムを維持するため、自分やみんなのために税金が使われているサービスを適切に利用していこうと思いました。